

Spring Seminar 2018 5th C Table 総評

ジャッジ：道方（青学）

●結果

- 1位 谷口（早稲田2）
- 2位 東野（高経3）
- 3位 荒井（武蔵2）
- 4位 菅原（慶應2）
- 5位 長井（高経3）
- 6位 高橋（高経2）

●議論の流れ

谷口・荒井・長井がオピニオンプレゼンターに立候補し、最終的に谷口がオピニオンプレゼンターに選ばれ、体罰を行った教師は懲戒解雇という体罰の **Usual** なオピニオンで議論が進められた。**ASQ** では体罰の定義・種類、**BOE** の判断基準などについての質問がされ、意見の浸透が上手くいかなかったり理解の違いで停滞したことはあったものの、**Question** を重ねたことで意見の浸透・理解をして検証を終えた。

NFC ではまず長井の「教育の質が低下するため×**NFC**」という反論に対し、谷口が「体罰は教育に良い影響を与えることもある」という反論を提示した。しかしうまく浸透せず、最終的には谷口が体罰によるプラスとマイナスを比べるためにコンパリで話そうという **Suggestion** を提示し、終息した。次に高橋の「教師の数が減るため×**NFC**」という反論に対しては東野が **Claim** を聞き、谷口が **DA** で話そうという **Suggestion** を提示し、終息した。

Solution では **Workability** でまず東野の「**Mandate** は体罰を引き起こす原因となるため×**Workability**」という反論と、菅原の「**BOE** は学校の情報を基に判断するため×**Workability**」という反論が出た。どちらも谷口の **Suggestion** により **A/L/1** が確認され、**DA** として話すことで終息し、**AD** が立論された。**DA** では谷口以外の人全員が **DA** アイデアを提示し、荒井のアイデアが **DA** として選ばれ、**AD>DA** アイデアの検証途中で議論が終了した。

●選定理由

- 1位 谷口（早稲田2）

オピニオンプレゼンターに選ばれ、反論に対しては最終的に谷口がすべて **Suggestion** を提示して流したため1位とした。ほかの人の話にもきちんと介入し、オピニオンプレゼンターとして積極的に議論を進めようとした姿勢は高い評価に値すると思われる。しかし、**Suggestion** の中身についてはタスク理解が欠けており、論理的でないものが多かったため改善の余地があると感じた。今後は **Suggestion** の質を高める必要があると考えられる。

2位 東野（高経3）

テーブルの中の論点を **Question** や **Confirmation** によって提示し、質も高くテーブルの理解の統一に貢献したため2位とした。介入の様子を見て、タスクをきちんと理解している印象を受けた。しかし、反論の検証で **Question** や **Confirmation** を **Suggestion** に繋げられなかったことが残念な点として挙げられる。今後は積極的に介入し、**Suggestion** を提示することが課題として挙げられる。

3位 荒井（武蔵2）

DA プレゼンターに選出されたこと、**Question** や **Confirmation** をして理解を統一しようとした姿勢を評価し、3位とした。ASQ の検証でテーブルの理解が統一されていないときに **Question** や **Confirmation** を行い、議論を進めようとしていた印象を受けた。しかし、発言の途中で他者に介入されたり、意見が浸透しきれないことも多々見受けられた。今後はプレゼンの工夫が課題として挙げられる。

4位 菅原（慶應2）

5位以下とは得点につながる **Question** ・介入量の差で評価をした。論点抽出の基本となる **Question** をしたり、反論や DA アイデアを提示していたことは評価すべき点として挙げられる。しかし介入量はまだまだ足りないので、今後は積極的に議論に参加する姿勢を示す必要があると考える。

5位 長井（高経3） 6位 高橋（高経2）

介入量とテーブルへの貢献度で5位・6位とした。二人とも NFC で反論を提示したり、DA アイデアを提示したことは評価すべき点として挙げられる。意見を提示している際に介入されてしまうことも見受けられたので、今後は介入量を増やすことと、プレゼンの工夫が課題として挙げられる。